

A. 授 業 研 究

都 築 亨 酒 井 為 久 加 藤 佳 孝 田 中 裕 巳
北 田 明 子 宮 田 学 川 田 基 生 原 幸 宏
丸 山 豊 高 須 明

教材構成と授業における生徒の反応

—— 中学社会科歴史学習の場合 ——

都 築 亨 田 中 裕 巳

1. 検討の視点

昨年の紀要において、われわれは、いわゆる内容ぬきの授業分析ではなく、社会科という内容教科について、発表学習をとった場合 ①教師の課題意識 ②生徒の関心（課題意識）③発表学習における指導のニュアンス ④報告者（生徒）の発表の仕方と一般の生徒の理解・認識等々のかかわりを問題にし、いわゆる授業というものが、生徒の発言回数の多寡によって決まるものではないが、どのような方法をとったとき歴史的課題として生徒の中に定着してゆくであろうかという問題の周辺をさぐろうと試みた。

その試みは、必ずしも成功だったとはいえない。社会科にとっては“よい授業”というものが、一体どのような評価項目から判断されてよいのか、その目的の多岐性、内容の多様性からも、一つの結論を導くのが不可能であることを検証したに過ぎない。

われわれが「授業研究グループ」を称して集まりながら、共通の研究の端緒さえつかみかねているのは、方法論以前の所で試行錯誤をくり返している状態であり、内容を意識して他の教科の「授業」を問題にする視点——中学・高校という教科のワクの中で物を考え、授業しているという現実の中で——教育・ないし教科教育の共通のグラウンドを末だに持ち得ないからである。

にもかかわらず、ここに一つのレポートを試みるのは、たまたま教育実習生に対して例年行っている公開授業を記録録音し、その授業記録を校内での研究会議の材料としたことがあったので、その会議における教科を超えた次元での発言をまとめながら、教科教育、授業研究の共通の視点をさぐることが出来るのではないかと考えたからである。必ずしもこの授業がよい授業の記録であるということではない。

2. 中学校における世界史分野の授業を例として

第一期の教育実習をうけ入れたのが6月早々であった。中学1年生の授業を次から教生にうけ持たせるという含みで考えてみた。なお、本校でのカリキュラムは、1年の4時間の社会科を2時間は別の教官が地理的分野を、そして2時間は歴史的分野、2年についても同様としている。

一応指導案をあげて、授業の位置とねらいを示しておきたい。

中学校社会科学学習指導案 指導者 都築 亨

- 1, 題目 「ローマ帝国とキリスト教」
- 2, 学級 中学校第1学年 A組 41名（男子21名、女子20名）
- 3, 日時 昭和50年6月3日（火）第1限
- 4, 本時の位置 第1章「文明のおこり」オリエント文明とギリシア・ローマの最後の1時限（又はキリスト教に関して更に1時間必要になるかもしれない。）
- 5, 本時の目標
 - 1, ローマが共和政を発展させてゆく中でなぜ帝政に移行しなければならなかったか、理解させる。
 - 2, 貴族共和政から帝政への過程で奴隷の果たした役割とその状況の認識。
 - 3, ローマの文化の特色、とくにギリシアと共通の文化をもちながらどの様な点で違っていたか……の理解。
 - 4, なぜローマの社会の中からキリスト教が発生し、多くの支持者、信徒を持つ様になっていったか。
- 6, 学習内容・学習過程

過程	学 習 内 容	指 導 方 法 ・ 学 習 の 留 意 点
導入	ローマについてのこ とわざ、連想する物 等を挙げさせる。 ローマが巨大な国家	生徒の中からロ ーマに関する知 識、情報をひき 出す。

展開	に発展できた原因は何か。最初の国は？都市国家。	都市国家から大帝国への発展に際しての戦争、
	最初の共和政がうまくゆかない様になったのは何故か。度々の戦争→市民の没落	征服。
終結	大土地所有者の台頭 → 軍人、豪商達 奴隷 その状況 奴隷の反乱 奴隷と大農場	征服や戦争によってその国の内部にいろいろの変化が起きてきたが、その変化はどの様にしておこってきたか。考えさせる。
	ローマの文化とギリシアの文化の違い。道路、水道、浴場 コロシウム、法律 貴族の生活と現実的文化	奴隷という物の存在について考えさせる。写真、美術全集により提示。文化遺産を通して当時の人々の生活の仕方を想像させる。
終結	ローマの政治や文化はどの様にして後世にうけつがれていったか。	

(1) 授業の記録

1975. 6. 3 (火) 第1限 於 社会科教室

P0	起立 おはようございます。	
T0	欠席ありますか？今日は6月3日？ えーと、昨日はものすごく騒いどったな。あとで矢木先生に叱られたろう。——叱られなかった。	
P1	叱られた。(2,3名)	
T1	えーと、今日はちょっと先生がみえてるけど普通のままでいい。——で、今日は何やるんだ。	
P2	スライド (2名)	
T2	スライドじゃない。——何についてやる？	
P3	ローマ。	
T3	あーローマ。この前の時間にちょっとやったね。——ローマといったら君たち何連想する？連想ゲームというのがあったね、それでゆこう。——ローマといったら何を思う。	
P4	コロセウム。	
T4	コロセウムについて何か知っているか、——全然？——知っている人——7人か。他の人は？	
P5	浴場。	
T5	浴場って何だ？ (W)	
P6	水道橋。	
P7	競技場、シーザー (W)	
T6	競技場とってさっき誰かコロセウムと言ったね。	
T7	水道っていったけど名古屋にもあるじゃない。どうしてローマだけにあるの？誰か？	
P8	わからん。(W)	
T8	誰だ、——鬼頭。	
P9 (鬼頭)	ローマの水道は二重アーチで古くから発達していた。	
T9	ローマの水道の様子はスライドであとでみよう。——他に何を思う。	
P11	神話。	
T11	神話もあるね。	
P12	キリスト教。	
T12	キリスト教もローマから出たね。——ローマについての格言とかことわざないかな？	
P13 (福田)	「すべての道はローマに通ず」。	
T13	「すべての道はローマに通ず」。それから？手をあげる人が決まっているみたいだな。 <板書>	
P14 (伊藤)	「ローマは一日にしてならず」.<板書>	
T14	「ローマは一日にしてならず」。もうちょっとあるかな？何か。	
P15 (鬼頭)	「ローマは三度世界を征服した」.<板書>	
T15	「ローマは三度世界を征服した」。そのくらいか。	
P16 (加藤あ)	「征服されたギリシア人は、猛きローマを征服した」.<板書>他にもうあるか？	
P17	まだあるよ。	
T18	ここにあげてもらったことばは、今日の授業のどこかに関係ありそうだな。——ちょっと覚えといて。——他の人いいか。	
T22	「すべての道はローマに通ず」というのはどういう意味だ。それ(資料集)を見ずに答えてみる。	
P21 (小坂)	大体の文化がローマから出ているから、そういう意味で。	
T23	ということは——それ以後にだね。それ以前とも関係あるみたいな気がするんだけどな。——ま、いいや。 「すべての道はローマに通ず」ローマの道路ってさっき誰か言ってたけど、有名なことばだね。——ただし、ローマの道路って名古屋の道路より広いか？——舗装されている？——セメントで？——セメントじゃな	

- T₂₄ いね。だけど舗装はされてはいるよ。
「ローマは一日にして成らず」ってどうい
う意味だろう。——他にないか。
- P₂₂
(田中) 大きなことをしようとしても少しの時間
ではできない。
- T₂₅ ははあー、大きなことをしようとしても
少しの時間ではできない。——というこ
とは——これが大きなことだな——ロー
マって大きいか、小さいか。(ローマ市
を指して)
- P₂₃ 小さい。
- T₂₆ ローマは大きいか、小さいか、(地図——
ローマ全体の——を指しながら)
- P₂₄ 大きい／小さい／
- T₂₇ ローマってどっちがローマだ。
- T_{28 2} この前ちょっと言ったね。ローマってこ
の所。イタリア全部?——どれがローマ?——
イタリアの真中の・
- P₂₅
(田中) <タ>のところ。(地図でタと書いて
ある所)
- T₂₉ イタリアの<タ>の所だね。最初ここだ
ったね。ローマはね。それがどうして大
きいの?
- T₃₀ ローマって、アテネやスパルタと同じよう
なマチだって言っただろ? そういうとこ
ろは何っていったっけ?
- P₂₆、 ポリス／
- T₃₁ ローマもポリスだよな、そうでしょう? ——
どうして大きい? ——このマチをローマと
言ったのかな? このマチじゃないね。
- P₂₇ 領地／
- T₃₂ 領地? ——どのくらい領地がある? ——
このマチだけじゃないね、この場合に
いてるローマというのはこれ全部さして
いってるね。ここが入るかどうかが問題だ
けど、——ここ迄は入るね。ここもちょ
っと入る。——こういう形で入る。(地
図を示しながら)
- T₃₃ その範囲のローマは何ていう?
- P₂₈ ローマ帝国。
- T₃₄ ローマ帝国っていうね。今迄の世界の中
でこれだけ大きな国って言うけど——面
積だけだったらすぐ大きくてすぐ亡び
ちゃったという意味でだったら——も
っと大きな国はあったかもしれないね。——
誰がつくった?
- P₂₉ アレキサンダー。
- T₃₅ アレキサンダーの国 あれ大きかったね。
- T₃₆ だけどこのローマの方は随分大きくひろ
がってきたし、随分大きかったし、それ
以後もずーと発達しているし、今でも
影響がある。——今でも影響があるって
いうのは——このことはあとでまた言おう。
ローマ帝国は発展していく。——こ
んな小さなローマが——だけどローマは
一日にしてならずというのはこういう都
市国家が、これだけ大きくなっていった
のは、そんな簡単なことじゃない。1日
か2日の、という意味で言っているんだ
けどさ。
- T₃₇ もう一つ注意してほしいけど、ローマっ
て最初から帝国じゃなかったのかな、——
はじめは何だった? マチ? ——
- P₃₀ 都市国家。
- T₃₈ マチ、都市国家。それを帝国というのか、
帝国って何だ?
- P₃₁ 帝政。
- T₃₉ 帝政っていうのは? ——帝政っていうのは
どういう政治? ——
- P₃₂ 天皇がいる政治。
- P₃₃ 王様も。
- T₄₀ 天皇／王様／——まあ王様としておこう。。
- T₄₁ 王様が政治をとってた? ——ローマって
のは最初から。——ローマは最初から王
政だったか?
- P₃₄ ちがう。
- P₃₅ 貴族。(W)
- T₄₂ 貴族の何だった?
- P₃₆ 共和制。
- T₄₃ あゝ、共和政。はあ、貴族の共和政だっ
ったね。<板書>貴族の共和政の説明は
もうしてあるからいいね。昔はローマ、
——この辺のローマ共和政だったね。前
にちょっといってたのは民主政と共和制
とはちょっとちがうということだったけ
ど、似ている点もあるね。
- T₄₄ その共和制だったローマがどうして帝政
になってきたのか——帝政になった時の
ローマは。——ちょっとむつかしい質問
になったな。(そろそろ本論に入ろう。)
えー、最初は共和制だったローマはどう
して帝政になっていったのかな。
- T₄₅ 他の人にちょっとむつかしいが思ったと
おり答えて、——誰か。
権力者が出てきてそれが他国を統一した
から。

T ₄₆	権力者が出てきてそれが他国を——他国ってどの辺の国？		になったということはどこか他の国をやっつけて自分の国にしちゃったということだろうと思うけど。どこかの国を征服したとかどこの国と戦争したということになるね。
P ₃₈	ギリシアとか。		
T ₄₇	ギリシアとか、ハイここで「征服されたギリシア人は、……」と書いてあるけど、この辺ギリシアだね。いいね。ギリシアはここで発展してたし紀元前年300年ごろまでは随分栄えたね。そのギリシアがローマ帝国に征服されてしまうことになる。他国を征服して、というか統一してというか、どっちでもいいけど、他国を征服したからとしておこう。ハイものすごく大きな力をもった人々が出てきて他国を統一する。ものすごく力のある権力者ってどんな人たちかな。	T ₅₅	戦争のことは言ったけな、ローマがこの位のととき<地図を指して>どこかの国と戦争した、前に言ったことあるね。地中海の向い側の国と、——何という戦争だった？知っている人？
P ₃₉	シーザー。	P ₄₇	カルタゴ。
T ₄₈	シーザー、ひとりじゃないと思うよ。	T ₅₆	カルタゴという国あったね。その国との戦争何ていった？
P ₄₀	ローマ法王。	P ₄₈	ポエニ戦争。
T ₄₉	ローマ法王ねえ、ローマ法王っていうのはもうちょっとあとにしよう。いいか、シーザーには関係ある、その中のひとり、シーザーだけじゃないけどシーザーみたいな人。シーザー知っているか。	T ₅₇	そうポエニ戦争というのがあった。この辺りがカルタゴ。この戦争は随分長い戦争でね、百年くらい、いや百年以上だ、百年以上というひとりじゃないね。最初から最後までという子どもの代から孫の代までかかって戦争を続けたわけだ。そのうちにギリシアの辺まで征服した。
P ₄₁	知らん。聞いたことはある。	T ₅₈	だから大体紀元前1世紀の半ばにはこの辺からこの辺まで<地図で>ずっと征服した。
T ₅₀	会ったことは——？	T ₅₉	もうちょっとたってからのことだけどこの辺りの土地も征服した人がある。誰か知っているか<地図で>ここを征服したとは言ってないけど、さっき誰かいったね。
P ₄₂	会ったことはない。	P ₄₉	シーザー。
T ₅₁	会ったことはないよね、聞いたことはある？どこで聞いた？	T ₆₀	そうシーザーだね。そのころまでにポエニ戦争だけじゃなくたびたびの戦争でローマに征服されたよその国がだんだんふえてくる。こうして征服されたよその国何ていうか知ってるかい？
P ₄₃	テレビ。	P ₅₀	植民地。
T ₅₂	「シーザー」っていうテレビの番組があったか？	T ₆₁	植民地—— そうだね、それでもいいね。別のいい方は高校で習うから今のところ植民地みたいな土地でいいね。
P ₄₄	映画。	T ₆₂	ではこういう風に大きな国になるとどうしても帝政にならんと、とてもやりきれないんだろうね。大きくなったから貴族の共和制ではやってゆけなくなったのは。
P ₄₅	映画があった、「ジュリアス・シーザー」。	P ₅₁	なかなかひとつの意見にまとまらない、意見の合わない人がたくさん。
T ₅₃	映画の話はそのくらいにして、さきの質問他に、どうして帝政に変わったの？シーザーみたいな人が出てきてローマ帝政をつくったということになるけど、他の人は意見ない？他の答ないかな？最初は共和制だったのがどうして帝政になっていった？	T ₆₃	なかなかひとつの意見にまとまらない、意見が合わないということは議会だけじゃないかもしれないね。そういう人が対
P ₄₆	最初は随分小さな国だったから貴族によって意見をまとめて政治ができたけど、大きくなって貴族も沢山になって意見が喰いちがうこともあるのでまとまらなくなってきたから。誰か権力者というかそういうものを作ってそれで統一しなければならなかったから。		
T ₅₄	大きな国になってきたから、ローマが大きくなったということだけど、大きな国		

- 立し、そしてさきの征服した土地が広がってくるとどういふ人が力をもってきたと思う。
- P 52 権力者。
- T 64 権力者っていうのは力をもっている人のことだろう。実際にはどういふ人、どんな風の人。
- P P 53 軍人／兵隊／
- T 65 軍人や兵隊、そういう人が力をもってくる、そうするとまとまらない、対立する。＜板書＞人々の意見が合わなくなって対立する様になると軍人たちが、——したらどうなる？
- P 54 戦争する。
- T 66 戦争する、そうだね、武力を使って争うことになるね。そんな人にはどのような人がいた？
- P 55 シーザー。
- T 67 シーザーだけじゃなく他にもたくさんいるわけだ、そういう軍人や権力者が。
- P 56 奴隷も。
- T 68 あ、奴隷もね。そう奴隷も関係するね。大きな土地をもってきたのはこういう人々もだけど、この征服した広い土地に住んでいた人は戦争に負けたらどうなる。
- P 57 奴隷になる。
- T 69 奴隷になってどこへ連れてゆかれる？
- P 58 戦争。
- T 70 戦争につれてゆかれる。
- P 59 先生／平民が奴隷になるの？
- T 71 平民が奴隷になるのかな。うんその国で平民だった人でもローマで奴隷にされるね。だけど平民だけじゃないね。奴隷にされたのは。——
- P 60 軍隊。
- T 72 軍人、兵隊も奴隷にされちゃう。
- P 61 王様。
- T 73 ひょっとしたら王様は殺されちゃうかもしれないぞ。
- P 62 貴族も奴隷にされちゃう。
- T 74 王様は殺されるかもしれないが貴族は大い奴隷にされちゃうね。奴隷のこと少し触れておこう。
- T 75 征服された人たちは奴隷になるけど、奴隷って知っているね。君たちの中で奴隷の人、他にどんな人？どういふ人が奴隷にされている？
- P 63 戦争に負けた人／
- P 64 逆らった人／
- P 65 借金を返せない人。
- (鬼頭)
- T 77 借金を返せない人も奴隷にされたね、覚えてるかい、前にいったね。ギリシアもそうだし、ハムラビ法典の中で借金の返せない者は奴隷にするっていうのあったね。戦争で奴隷になると借金で奴隷にするってあったね。戦争で奴隷になると借金で奴隷になるとローマでもハムラビ王の国でも同じだね。ローマではどっちが多かった？
- P 66 戦争で負けた人。
- T 78 どうして？
- P 67 何べんも戦争したから。
- T 77 戦争を何度も何度もやって征服した人を奴隷にしてローマへつれてきたのだとしたら、そうした奴隷はローマではどんな待遇をされていたのかな。ギリシアやオリエントの奴隷と比べて、ローマの奴隷はいい待遇をうけていた、それともひどい目にあってた？どっちがひどい目にあってた？どっちがひどい目にあってたと思う？
- T 80 ギリシアの方がひどい目にあったと思う人？
- Cs 0
- T 81 ローマの方がひどい目にあったと思う人？
- Cs 多数
- T 82 どうして。
- P 68 戦争に負けたから。
- T 83 戦争でやっつけられたから。
- P 69 逆らったから。
- T 84 逆らったということは戦争をする前に逆らったということもあったかもしれんけど、奴隷にされたあとで逆らったかもしれん。
- P 70 スパルタカス。
- T 85 スパルタカス知っているかい？知っている人、手をあげて。
- T 88 映画もあったんだよ、ずっと前。見た人。——ひとりか。スパルタクスは奴隷だったね。奴隷というのはさっきもちょっと言ってたけど、そういう仕事に使われていたわけだけれど、奴隷にはいろいろ仕事がある。どんな仕事があるかということ……。
- P 73 家事、家畜の世話。
- P 74 そうじ、料理、洗濯。

T ₈₉	家畜の世話も畑仕事も裁縫も掃除も育児もたくさん仕事があって全部奴隷の仕事なんだけど、一番きびしい奴隷の仕事は銀山奴隷なんだ。わかるかい、銀山奴隷っていうのは山で銀を掘る奴隷。足に鎖をつけられてその先に大きな鉄の玉がつけてあって逃げようとしても逃げられない。スパルタクスはそういう奴隷だった。銀を掘る量が少ないと飯も与えられない。	T ₉₉	やる。 ピストルを発明するんだね、その頃はな いから。スパルタクスはそうされてその うちに決斗させられる、ある相手と。そ して斗って相手をうち倒す。ふつうなら そこで殺すわけだけど、スパルタクスは 殺すことを止める。
P ₇₅	おしおきだ。	P ₈₇	じゃ、殺される。
T ₉₀	うん、そして死んだら放っておかれる。 スパルタクスはそういう奴隷だった。銀 山奴隷にされてものすごい仕事をさせら れていた。スパルタクスはそのうちに見 せ物師に買われるんだ、奴隷というのは 売ったり買ったりされたね。	T ₁₀₀	殺さなければ殺される。でもスパルタク スは殺さないでやめる。
P ₇₆	動物みたい。	P ₈₈	えらい。
T ₉₁	動物と同じだね。しかも売ったり買った りされるといのは道具かもしれないぞ。	T ₁₀₁	そうして奴隷たちの信用をあつめておい てスパルタクスはある日脱走するわけだ。 他の奴隷は？
P ₇₇	ものをいう道具。	P ₈₉	随いてくる。
P ₇₈	やぎだ。（担任の先生 矢木先生）	T ₁₀₂	脱走してスパルタクスは仲間の奴隷だけ でなく、まわりの村の奴隷たちたくさん つれて、——どうする？
T ₉₂	ローマの貴族たちは道具としては高級だ ぐらいに、そんな風にしか思っていなか った。見せ物師に使われたというと、何 に使うと思う？見せ物にするとしたら何 やらせるのかな。サーカス、手品、やる の。この件につきまして何か質問はござ いせんかって。	P ₉₀	反乱をおこす。
T ₉₃	奴隷を買って行って見せ物小屋で奴隷と 奴隷を決斗させる。死ぬまで斗わせる。 その場所はどこかという、今でもその あとがのこっている。	T ₁₀₃	そう反乱をおこす。ひとりじゃだめだけ ど多勢一緒に力を併わせて斗えば勝てる かもしれない。
P ₈₀	コロシウム。	T ₁₀₄	どのくらいの奴隷が味方したか。
T ₉₄	そうコロシウムで、あとでスライドみて みよう。奴隷同士を斗せて見せ物にする。 どっちが勝つか。	P ₉₁	1万人、5,000人、……。
P ₈₁	強い方が勝つ。	T ₁₀₅	もっと。
T ₉₅	まだほかに何かと斗わせる。	P ₉₂	10万人。
P ₈₂	牛。	T ₁₀₆	10万人も集まれば多いだろうね。スパル タクスは10万以上の奴隷をひきいて反乱 をおこす。ローマの將軍たちがこれを征 伐するために次々とやってくるけど、ス パルタクスはそれらと斗う。片ぱしからこ ういう將軍たちのローマ軍をうち破る。
T ₉₆	奴隷と牛とを斗わせる。そのうちに……。	P ₉₃	武器は？
P ₈₃	ライオン、虎。	T ₁₀₇	最初は何だったろうね。でもはじめにロ ーマ軍を破れば武器は手に入るし、その 武器で今度はローマ軍をやっつける。ス パルタクスは自分でもいろいろ武器を工 夫したみたいだね。映画では広い野原を はさんで両軍がおつかるとスパルタクス は枯れ草を車のように積んで丘の高いと ころから火をつけて敵の方へ転がす。
T ₉₇	ライオンとも斗わせる。奴隷とライオン を斗わせたらどっちが勝つ。	P ₉₄	焼けちゃう。
P ₈₄	ライオン。	T ₁₀₈	そうしてやっつけるけど、とうとう最後 にはローマの將軍の軍隊にやっつけられ る。スパルタクスを破ったローマの將軍 は……。
P ₈₅	時には奴隷が勝つ。	P ₉₅	誰？
T ₉₈	そういう目にあったら君たちならどうす る？	T ₁₀₉	名前はいいけど、とにかくスパルタクス
P	P ₈₆ ピストルなら勝てる。ピストルでバンと		

も最後には鎮圧にやってきた将軍にやっつけられ、そしてスパルタクスは捕まるわけだけど負けて捕虜になった中には必ずスパルタクスがいるとらんで、ローマ軍はスパルタクスを探そうとするがスパルタクスはどこにいるか教えるか。

P96 誰もおしえない。

T110 でも最後にはスパルタクスはい、「俺がスパルタクスだ」とね。そうすると驚いたことにあちらからこちらからも「俺がスパルタクスだ。」……。

P97 やるう！

T111 スパルタクスを見つけ出したローマ軍は道の両側に柱を立てて6000人の目ぼしい奴隷たちを全部縛りつけて晒すわけだ。こういう反乱はいくつでも起こったし、奴隷はいつもひどい目にあってきた。ね、コロシウムで見せ物みたり、お風呂でのうのうとしてたり、そういう生活をする貴族が片方にいて一方では今いった奴隷がすごくたくさんいる。そういう社会はいいか、わるいか？

P99 わるい。

T113 なぜわるい？

P100 不公平だから。

P101 貴族ならいい。

T114 今みてきたことについてスライドでみてみよう。いいね、これは何だ。

P102 コロシウム。

T115 下に車が入っているからだいたいこの大きさは見当つくね。何世紀も前のものだけだ。

T116 これはコロセウムの中、ここで何をやった？

P103 決闘。

P104 見せ物。

T117 こういうものができたということは、奴隷が斗って、その決闘をみて喜んでいた人がいたわけだね。

(以後スライドで、コロシウム、水道橋、凱旋門 大浴場跡など見ながら説明を加える)

(2) 授業についての検討

1975.6.5 (木)

研究会議

《授業研究》

司会 今日会議は校長先生のご希望もあって録音したいと思いマイクを置いたのですがよろしいですか。何か不都合な事があれば止めますけれども。よろしいですね。

三枝 活発な討論が出れば附属の先生はこういう、この位活発な研究をしているということを教生やら何やらに紹介する必要があるかと思う。いけなければあとで消します。あとでとっておけばと思ってもあれですから。自由なのですよ。言論の自由を拘束するわけは別れない。

司会 お気持ちを汲んで録音をとりながら、そういうことしてご自由な発言をお願いしたいと思います。見ていただいた先生が少いので大変残念ですが、1の辺を頭に置いて都築先生にどんな内容の授業であったかを、本当はテープなどを聞いてするといいいのですが、時間がないので、先ず概要をおねがいします。

都築 どうしてこんなことになったかわからないのですが、教生に見せる授業をということで加藤さんをお願いする前にほくもやるからと言ったのが運のつきでこういうこととなりました。実際には社会科の教生と先生方の中で数人の方にご覧頂いただけでした。頂いた先生方はいずれもヴェテランの中のヴェテランでとても今私が言うとお叱りられることばかりだと思います。意図だけ言いまして後、授業の仕方の悪い所をご指摘頂いて——この一時間は狙の上ののったつもりでいますから、どんなことでも言うただければと思います。丁度この時間は古代の終りになるわけで、「ローマ帝国とキリスト教」というタイトルをつけました。だけど結果から見ますとキリスト教には全々触れられませんでした。多分そういうことになるだろうと思っていましたからまたはキリスト教に関しては更に一時間と要するかも知れないと上にことわってはおきました。中心の生徒はかなり活発と言えは活発で授業しやすいと言えはしやすいクラスなのですが、あれだけ先生方がみえていると相当生徒は緊張していたようで授業がすんでから、アレほくの言ったことを録音していたのと盛んに気にしていました。その時間だけ見られた先生からすると非常におとなしいクラスだと思われるかも知れませんが、相当なものです。でも授業としては、やかましかった方がやりよかったかとも思いますし、いつもの授業から見ますとちょっとシラケムードで、その面から言うとおとなしくなかった授業だと思います。最初ローマについていろんな諺とか何を知っているかとかあげさせて、そしてローマの認識を一応定着させた上で、それじゃ一体ローマがあれだけ大きくなっていったのは何故か、あれだけ大きくなっていったと申しますと、諺の中に「ロ

「ローマは一日にして成らず」とかなんとか出てきますし、どうしてそんなに大きくなって行ったのか、その時間で押さえたかったものは多分二つあったわけです。一つは共和制が何故帝政に移行していったか帝政に移行さざるをえないという状況といったものが歴史の中に起って来ているということを押さえたかったということが一つともう一つは奴隷の問題ですね。だから後に貴族の頹廢的な享樂的な生活があったということもついでにそこで触れておきたかった。簡単に言えばそれだけのことです。それを一時間かかってああでもないこうでもない質問を出しながらいったわけでして、見ていた教生のノートなどに書いてあったのは質問法というのはこういうものですかなどを書いておりましたけど、私は講義式のつもりでやっていたわけですので、まあ授業というのはどういう形のものなのか、後で、先生方にむしろお聞きして今後の参考にさせて頂ければと思っています。以上です。

司会 どうもありがとうございました。まあ狙い等は今お話があった通りで、大体教案なんかで授業をごらんにならなかった先生もおよそのこと分かって下さるかと思います。見た先生が大変少数なので残念ですが――。方法としては校長先生に伺いながら板書を写真で、座席表を作って発言は主なメモだけ座席表の生徒番号でメモして、後は今の録音テープで詳しく再現するようにということだったのですが、早速ですが実際に見て下さった先生に批評をいうと何か改まっておっしゃりにくいですが、もっと自由にごく内輪なことでも無礼講ということで感情等自由にお話しねがえるとありがたいと思います。その中で出来ましたらごらんになれなかった先生の為にもイメージが浮かぶようなお話をして下さるとありがたいと思うのですけれども、戸荻先生ずっと見て下さったわけで、一つお願いいたします。

戸荻 いや、そんなつもりでみてたんじゃないですよ。まあまとまりもないのですけれども、ともかく申し上げますと、大体一礼しますと日頃の状態が逆に推測出来るわけですが、日頃はもっと活発だろうと思うのですが、相当静かなんですけれども、うまく引っぱり出して授業の核心にもっていかれる技術といいますが話術といいますがこれはもうさすがなものだなあと感心しています。それが先ず印象に残ったことです。それからもう一つは中一の生徒でも、もって行き

方によって随分深い考え方まで、一人一人では無理なのですがそれを組み合わせて行くとかなりな所までこの像がしぼられて行くこと、これを非常に教えられました。やっぱり生徒になるべく発言させるようにということは私も同じ内容教科の一部を持っているのですから常に心掛けてはいることですが、やはりそういう点で理科とは別の意味の特にこういう歴史教材ということになりますと日頃の生活からは一寸はなれているものですから仲々難しいわけですがけれども、いろいろなものをちゃんと織りこんで生徒への役立つ配慮もよくしていらっしゃる。この辺も非常に印象的でした。生徒自体がこの反応したことについて特に今重点として二つあげられたのですが、ローマが共和制から帝政へとかわっていったあるいは共和制以前の状態からだんだん大きな組織へ移って行ったその辺のところをやはり中一なりに、かなり掴むことが出来たような感じがいたしますけれども、そういうこの授業の全体の流れの計画というのは、まあ研究授業ということで多少はお考えになったかも知れませんが、やはりその場でやろうと思っても出来ることではなく日頃のやはり反映するところにあると思って拝見しておった次第です。もう一つ奴隷というわれわれには更に縁遠い感覚ですけれどもそういったものについても、それからギリシアの奴隷とここには出ていないのですが後半にはそれになっていますがローマの奴隷との質のちがいか、何故そういった反乱が、そしてそこに帝政の必然性といった点にたかめてその辺りをいろいろ、それから更に多分キリスト教へもって行こうとなさったのではないかと思うのですが、私も久し振りに楽しんで一時間勉強させて貰って一時間も聞いていたという感じがしなかったです。まあ、ああいう授業だったら本当に楽しいなと思いました。まとまりのない思いつきばかりで申しあげました。又何か思い出しましたら。

司会 どうもありがとうございました。米山先生ずっと早くから見て下さってありがとうございました。よろしく願います。

米山 そうですね。ここにプリントがありますが「君達ローマといったら何を連想する」というのは、これは本当に録音で聞いたら大変いいと思いますね。非常に楽しかったし、この導入は見事だったと思いますね。このあたりのしゃれ方もね。どっばり下らずに自然でね、これは確かに一度録音をきく価値があると思う。ほくも参観とい

うより中一の生徒と一緒に楽しんで笑いながら楽しんでいううちに時間が来たという状態ですけどね。地図をまず見せてそれからいろいろ連想させて連想でもってコロセウムとか浴場とか水道の話で名古屋の水道と当時の水道とは一体どういうものとかローマ人のはなしから諺「ローマは一日にして成らず」はくはまあ「ローマは一日にして成らず」とか「すべての道はローマに通ずる」とかであとのむつかしいものは生徒がポンポン言うのでどうしてまあと思っていましたけれども、生徒がそういう風に一つ一つポンポン偶然のようにして出す「ローマは一日にして成らず」「ローマは三度征服す」とかをあとでちゃんとそれに結びつけて歴史的事実というものと諺が出来上ったのを根拠というか歴史的背景というか経過を論じてまとめた。これが非常に生きていた。生徒から偶然ポンポン出たのが最後はうまくどういうか歴史的解説と結びつけていくという点が、何か無雑作に見えるけれども計算づくでやっておられたのかお聞きしたいようなことですが。生徒に言わせるだけ言させたのが、うまく生きて行くという点がうまいと思いました。それから地図・スライドそれから特にスパルタクスの映画の説明が情熱的で、どうも生徒がどの位みていたか知りませんが(余りみていない五、六名です)あの奴隷の反乱というような説明が、まあみていなくても仲々面白かったし奴隷の反乱というようなものが何故起こるのか今で言えば百姓一揆か何かその辺につながりを思うし歴史の動きとは何かということを生徒が掴むのではないか、と思います。生徒がいきいきと反応出来るようないろいろな点で訴えながら生徒をひっぱり出して行くこれが一番いい授業だと思う。非常に勉強になりました。以上です。

司会 ありがとうございます。米山さんから質問がありました、計画的かどうかという。

都築 いや、そんな計画ないです。教生にみせるつもりで、その点でプリントを刷りましたけれど、後は一寸思いつきですが、何とかまとめなければしょうがないので。

織田 質問ですが、何人位の生徒が発言していたのでしょうか。

三枝 その点では若干やっぱり片寄りがあったですね。私名前が分らないのですが、自分で番号をつけたのですが、番号を言っても仕様がなつか。4名位ですね。後で名前をきいてみようと思うのですが。

都築 普通の授業だとその3倍位はいろんなこと言うのですが、女の子は一人しか言わなかった。

三枝 少し片寄っていますね。

都築 少しどころか大いに片寄っています。

織田 それからこの記録通りにどうして帝政になっ行ったかといきなりポッと出たのですが、その間何かやりとりがあったのかどうか。そこが一番の狙いだというのが、その狙いがいきなり出て生徒が分ったのかどうか。狙いがいきなりパンと出て来て一寸むつかしいかなと思うのですが。

都築 一つ位何かあったかも知れませんが、そんなに念を入れては言っていない。

戸苅 共和制については一寸はなし合いがあったように思うのですが、何人かで話し合っって政治をするとかいうようなことがね共和制といったことが出て来た後でそれからどうしてという風に入っていましたね。貴族について言ってね。それから共和制からどうして帝政になったかと。だから前に共和制について説明していますね。

織田 やりとりがあったならばいいのですけれどね、もしそれがないと、むしろ一番むつかしい所で分りにくかったのではないかと思いたしたので。

戸苅 今のことに於いてささやかなことですが、ここに上っている仲々むつかしい格言がここに出てきたわけですけど、それがやはりこの記録におちているのですけれども、生徒かたまたま資料をもっていて、それに書いてあるのを読んでおったですね。そこへ気がついたのは非常に結構なのですけれども、それだけですと生徒の中から沢山出て来てかなりどの生徒も知っているという背景で展開して行ったように授業記録からうけ取られるのですが、実際はそうじゃなくてある特定の生徒が気がついておりましてそれを次から次へいい具合に出してくれちゃったのです。それが他の生徒にどの位徹底したか特に発言の少なかった女の子にというように多少気になることはなっていたのです。それからやはりわれわれは授業の中で自分に都合のよい材料を出してくれる生徒はもう本当にああ助ったというようなわけで、それを組みこんでついでに暴走してしまう危険性がぼくなんか特にあるのですけれども、後でしまったと思うことがまあよくあるのです。やっぱりその時にそれがどの程度の生徒に徹底しているかということの特にきめ手になるようなものについては確認をして行く。どういう意味なのか、どの程度の人がどんな風にイメージ

をもっているかことばと大切な概念といった点にかならずズレがあるということを感じさせられているものですから、その辺ではかなり私は生徒に対しては懐疑的になって相当うたがい深く、しつこく生徒にきくのですけども、そうするとやはり生徒もああそうかというように気がついていたり、そしてその背景で進んで行く授業は一層がっちりしたものになる。何もかもそんなことをする必要はないのですが、かなりきめ手になるものはなるべく沢山の生徒に相当まとまったかたちで受けとめられるように配慮と進度は気になりますけどやって行く必要があるという感じがします。

- 織田 もう一つ教科書をどの程度に利用されたか。
 都築 読ましたことは、この時間については全然ありません。授業で教科書読まなかったけれど読んで調べておけと言いました。
 織田 ページは。
 都築 あゝ ページは言いました。
 織田 それで記述はどの位ありましたか。
 都築 2 ページです。
 原田 これに観察記録をつけ加えると面白いと思うのですがね。どこでどんな板書をしたとか生徒にどんな反応があったとか。
 原田 さっき都築先生が講義式の授業だと言われたけれど、講義式ではないね。
 司会 そうですね。講義でもないし教生に言わせるとこれが問答式というのですか、対話式でもないですね。ぼくも出たり入ったりで一寸しか見えないのですけどね。
 都築 対話式ではないね。
 司会 何というのですか。とても都築先生の問題の出し方が上手なのですね。いや又逆も言えるわけですが、生徒の答が思うようなのが返って来るのですね。反対が出て緊張が生ずるという場面がわりになかったですね。だからあんな上手生徒が悪い方へ持って行こうと思えば、これは社会科の先生で、どんどん生徒が行ってしまうような気がして見ていましたけれども、本当に進め方が上手でいらっしょと思いました。他にどうでしょうか、ごらんにならない先生もどうぞ。はいどうぞ。
 田中 ぼくは大体今同じところ中二の方で教えているのですけど。これだけやりとりしながらやったら板書は出来ないだろうしという感じをうけますね。これも参考に聞きたいのですけど、これはローマを学習する最初ですか。
 都築 この前答案を返したついでにちよっと。だか

らローマというのがイタリアのこの辺から出て来て、最後大きくなって行ったとだけは言ったね。

- 田中 ぼくなんかも丁度今ローマに入ったところなんですけどたえずギリシアも地中海で、ローマもイタリア半島で次第に南下してきたとそこらへんからはじめてくるわけですね。すると相当時間がかかる。ポリスが出て来て三頭政治までいく前に一時間おわっちゃいますね。
 都築 これは三頭政治なし。
 田中 そうですね。だからどの程度、内容にかかわるかも知れないけれど、中学でどこまでやるかということで大分都築先生ははしおっているなという感じがね。
 都築 そうです。ちらっと出してあとは全部カット。
 田中 教科書ではたしかに2 ページ位ですね。予定としては相当のピッチで行かないといけないですね。ぼくなど、板書に非常に書きすぎてしまうのですが、やっぱり中一であまり発言するのが限られてしまうと、他の子はどうかということやっぱり板書されたものをかいている生徒が中心です。そうするとこの授業は話をきいてる分には面白いと思うのですけれど、それがどれだけ時間の経過の中で定着して行くかということになるとかなり問題がおこるのではないかという気がするのですが、たしかにポイントは押さえられているが、基本的事項の整理とか板書など。
 田中 社会科教室など。都築先生がやられた後を見ると、あっさりしている印象があるのですけれど高校へ行くと白井先生がきちんと整理に書いてある感じで、ぼくなんかどうしても中学の方も高校的にやっちゃってやりとりが却ってせまくなってしまっているのですが、どの辺まで生徒との会話を深めて整理して行くか中学の方がむつかしいと思う、逆にこっちも反省してしまうのですが。
 司会 ありがとうございます。他にいかがでしょう。加藤さん如何ですか。
 加藤 普段はあんな授業ではなくて研究室でみれば大体授業の内容が分るという位ワアワアですがぼくの場合ワアワア言わせない。特に最近考えているが、いろいろなやりとりの中で授業うけている44名なら44名がその頭の中できっと同じものを考える。一人がこたえ一人に質問するのでなく、とにかく全部に質問して一人がこたえている時も、全員がとにかくそれを聞いている、44名の頭の中が一つに集中するようこ

それを最近物凄く気にしている、それでよく物を知っていてこっちに都合のよいようなこたえばかり信用しているというはどうしてもとりこして行く、その辺を如何にすべきか、その辺がまあ授業の研究になるのか、まずは授業の研究の狙いは何なのかこの辺かまだ自分では整理がついていない。黒板に沢山書くといったらばくなんか物すごく沢山書く。ぼくが最近改めたのは特に中二の方ですが黒板にかかない一緒に考えたり一緒にワイワイやったことを先に黒板に書いておく。そして授業のあとで、今日はいろんなことをやったのだなど。とにかく皆で話をしたり考えたりしている時に手を動かさない。一緒に考えるたまには手をお膝と幼稚園ではないが。そんなことをしながら。都築先生の授業はとにかく楽しいし日頃のはもっとたのしいし、ああいう風にかないものかなと思っている。

都築 非常に参考になりました。

加藤 ただ地理の場合は仲々物を言わなくなりましたね。二、三人に言わしておいて、その中からとりやすいのを皆で考えようとするのですが。

司会 私あのクラスで前教師が授業をやりましてね。キトウというのか室長？あの辺がパッパッとこたえ又質問もする。教師はそこでやりとりしてしまって、仲々活発でいいクラスでいい授業が出来ましたなどと言うのだけど、考えてみると女の子はやっぱり置き去りにされていてもう何やっていいかわからない黒板を写すだけでというようなことになりがちですね、むづかしいですね。あまり調子を合わせてもいけない。それぞれ先生はじめいろいろな面で工夫されている様で非常に参考になりました。

川田 先生が授業で苦心されているところをお教え頂ければありがたいと思います。

司会 一つおねがいします。

都築 苦心とすれば、中学の進度からいきますとローマ帝国とキリスト教全部まとめて一時間でやらないことにはすまんような配分なのです。だからどだい無理なのです、本当は。高等学校なら5時間位のところを一時間でやる。高等学校だって時間数はそんな多くはないのですけれども。その中で何をこの時間に連中に記憶にのこせばいいのかなと、全部人の名前や何かと挙げていったら駄目にきまっている又、生徒も覚える筈がないのだから私は大体いつも授業の中で二つ位にしているのです。その点についてはいろんな点で何かを引っぱって来たりなどするその位のものです。

司会 ありがとうございます。どうも社会科の先生にご無理ねがいました。他の先生方どうぞ何かありましたらおねがいます。矢木先生何かありませんか。

矢木 担任としてですか。中一やっぱり答える生徒はほんの僅かであとの特にわたしのクラスは女子が、余りにもおとなしすぎるのか男子が活発すぎるのか、女子が反応して来ないという問題を感じているのですけれどね。まあこたえるのが二、三人、あと自分がこれ位のことは押さえたい。ところが押さえたいのをこの辺の生徒にと思ってもその前にこたえてしまう、そうした時にその答をとりあげないわけにいかないしそうかといって捨ててしまっても発表した子が変なことになってしまってもその辺がむづかしいのですけれども。それから中一なんかは小学校の延長で何か質問すると手をあげるのですね。その手をあげるというのはぼくはいいことだと思うのですけども。やっぱりあてられて発表するという形じゃなくて、分っている子はすぐあてられなくてもいう、こちらでは大体あの辺の子にあてて、いろんな子にあててききたいと思ってもそれが出来ない。そうするとあの辺にあてたいと思っていたら手をあげても手をおろしなさいと、一寸押さえつけるような形になってしまうのですね。すると分っていた子が手をあげなくなってしまふ。それが中二中三高校生なんかもう全然手をあげない。分ったのか分らないのか聞いても、高校生になると全然反応がないその辺のことどういう風にやっていったらいいのか。手をあげるのもなくしたくないしかといって余りればっかり手をあげさせてばっかりも何かまずいような気もするしその辺むづかしいなと思っている。でぼくが教育実習に行った時、小学校へ行ったのですけれど、手をあげるにしても、指でサインするのですね、一寸、一本だと少しわかった。二本だと半分分ったとか手をあげれば全部分ったとかサインをする。そういうものも利用できたらいいなと思う。

3. 教材構成の原理を確立するために

「授業」で一体何をねらったのか。そのねらいが、生徒達にどのようにうけとめられ、どの程度彼等の意識の中に定着していったのか。「授業」を考え、又その分法を改善するため、われわれが意識的に討議のメインにおいたのもその辺の事項であり、日常の授業展開についても基本的には、ここに立脚すべきであろう

と考えている。

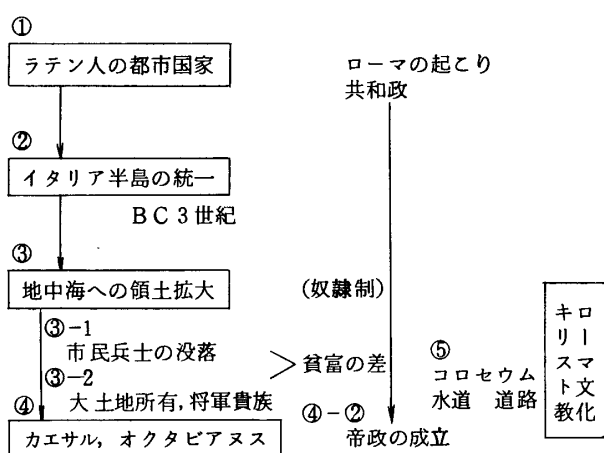
しかしながら同じ「内容教科」であっても、理科と社会科とでは状況は異なるだろうし、中学校と高等学校とではその取り上げ方や到達目標も違う。当然のことである。

ここに出した「ローマ帝国」の教材内容は、中学社会科にも、高校「世界史」にも顔を出す教材であり、一般的には中学の教材は、高校世界史の内容のダイジェスト版化しており、その内容を中学生段階に理解され得る最少限のものとして教科書も構成される。

「しかし、貴族は兵士として従軍した平民の土地を集め、奴隷を使って耕作したので、平民は仕事をうしない貧しくなった。こうして共和政治がいきづまり、紀元前1世紀には、カエサルが大改革を行ったが、そのあとをついだオクタビウスに、ついに共和政治がたおれて帝政にかわった。」(大阪書籍) 中学社会

この程度の内容もしかしながら、現在の中学生の一般的理解能力をかなり超えたものであろう。むしろ旧世界史Aの内容と同程度であるが、高校進学率が91.9%をこえた現在、高校の内容と重複する教材を中学で準備する必要はないであろう。

ローマについてはいくつかのことわざを生徒は知っているはずであり、前掲授業記録で出した2,3の格言、ことわざを導入教材に使いながら、ローマ帝国の汎図を示す地図とコロセウム等のスライドを用い、教材を構成してみた。図式化してみるとこうである。



ローマ人が何系の人種なのか、何世紀頃半島を統一したのか、こうした個別的知識を中学生に学ばせなければならない必要性はない。カエサル、オクタビウスの名前程度は結果として出てくるかもしれないが、そうした人物を歴史学習のCoreに持つてくる必然性もないであろう。

したがって学習の中心は③であり、③にいたる歴史のプロセスの中に「ローマは一日にしてならず」といわれる所以を見出すことができる。その属州の富と奴隷の上に上昇し来る新貴族 *nobiles* と、没落し無産化する市民 *Proletarii* として奴隷の存在、「ローマ人は廃虚をつくってそこを平和とよぶ」(タキツス)といわれたローマの繁栄のかけにかくれた矛盾と混乱——そしてそれが共和政をゆきづまらせる実体を中学生の視野の中にどのようにくみ入れ、学びとらせていくかというのが「授業」の問題となる。

見方によっては極めて高度の歴史的洞察力を必要とし、別の見方をとれば、前掲の授業記録にのせられた程度の生徒のやりとりは極めて幼稚な授業展開とみることもできる。

- a 要素的知識教材 都市国家, 貴族, 平民, 奴隷
- b 概念理解 共和政, 奴隷制, 帝政
- c 歴史的関連 (因果関係の把握)
 - 領土の拡大→市民兵士の没落
 - 奴隷の増大, 輸入
 - 大土地所有 (貴族共和政の基盤としての土地所有制の崩壊)
- d 歴史的理解を助ける附随的固有名辞
 - ラテン人, ポエニ戦争, スパルタクス, カエサル, オクタビウス, コロセウム, 水道, 十二表法

d は往々にして「歴史」学習のメイン教材として暗記すべき対象と生徒たちにうけとられ易いし、更に人名や年代が付加されるが、本質的には挿話やたとえ話と同じ次元のものであり、a は、すべての理解の前提になり、b は程度の差はあれ、中学生としてある程度の理解は必要であり、かつ能力によって内容把握に多分に差の生ずる事項である。そしてcこそがこの授業で把握されるべき「歴史」の内容ではなかったかと考えている。

授業記録にのこしたローマ帝国の授業でも、c を重視したつもりであるが、どの程度理解把握されたか、比較的学力のある者が、d についてはかなり充分の成果をおさめながら、c についてはややもの足りない反応を示した者もあるのは、テストを意識してd に関心の重点が移っていたことが指摘できる。現在の塾的学力指標をもっている多数の子供たちにとって、b, c を深めるためには、教材は、スパルタクスの話やスライドのコロセウムのような「暗記することを意識しない」教材にかえることが大切なことではないだろうか。